

Annual Report 2015

活動報告書 2015.1－2016.3





©FESJ/2015/Mariko Tagashira

Annual Report 2015
活動報告書 2015年1月～2016年3月 注:会計年度の変更にともない、2015年度は変則的に2015年1月から 2016年3月とします。
一般社団法人 エル・システムジャパン

01	ごあいさつ
02	相馬市長・大槌町長より
04	エル・システムジャパンの活動
06	これまでの支援活動状況
08	主な活動内容
10	エル・システム子ども音楽祭 in 相馬
12	日米エル・システム共同企画 ドウダメルと子どもたち
14	テレサ・カレリーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ相馬公演
16	ドイツ公演ツアー
18	響け!復興へのハーモニー～つながる未来～
21	現場の声
22	外部評価調査報告
25	アーティストからのメッセージ
26	ご協力いただいたアーティストの皆さま
29	謝辞
31	財務報告
32	メディア掲載一覧
35	組織概要
36	沿革

学年、年齢の表記は当時のものです

ごあいさつ

日頃よりエル・システムジャパンへの温かいご支援をありがとうございます。

この15ヶ月の間、相馬と大槌の子どもたちは、多くの演奏発表・交流を持ちました。2015年3月には、エル・システムが生んだ若き巨匠グスターボ・ドゥダメル氏による指揮で、ユース・オーケストラ・ロサンゼルス (YOLA) とのリハーサルを公開し、好評をいただきました。同年11月には、本場ベネズエラのユースオケとの共演も実現しました。両オーケストラとも、福島相馬への訪問を心から希望してくれました。そして震災から5年目の2016年3月。エル・システムジャパン誕生の契機となったベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーと、相馬子どもオーケストラ代表37人の子どもたちがベートーヴェンの「運命」をベルリンにおいて共演させていただきました。こうした演奏の披露も生涯を通じた貴重な経験となったと思います。

一方、学習障がいを抱えていたり、不登校になりがちな状況にあったりする子どもたちへ一人一人に向きあう音楽活動も展開しています。さらに、続けてきた学校支援の取組みの一環で、津波被害で11名の児童が亡くなった相馬市立磯部小学校鼓笛隊のパレード行事にむけ、全校児童50名が専門家や地元指導者の指導を手厚く受けて、堂々と演奏できるようになりました。いまま3割の子どもたちが仮設住宅での暮らしを余儀なくされている大槌でも、弦楽器教室が、子どもたちの数少ない居場所の役割を果たしていることが、地域の人たちから評価されつつあります。

希望するすべての子どもたちに、音楽を作り上げていく喜びを。このことが、子どもたちのみならず、周りの大人たちや地域社会の活力となっています。3か所目となる活動地域について、関係者との対話も始まっています。

引き続き、子どもたちの音楽活動への温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

エル・システムジャパン 代表理事 菊川 穰



菊川 穰 略歴
1971年神戸生まれ。1995年ロンドン大学ユニバーシティカレッジ卒業。1996年同大学教育研究所政策研究修士課程終了。その後、1998年よりユネスコ・南アフリカ事務所にて教育担当官。2000年よりユニセフ・レソト、エリトリア事務所において、青少年、子どもの保護、及びエイズ分野を担当。2007年より日本ユニセフ協会へ異動。2011年3月より東日本大震災緊急支援本部チーフコーディネーターとして支援活動を指揮。2012年3月に一般社団法人エル・システムジャパンを設立、代表理事に就任。



立谷秀清 相馬市長

東日本大震災からの復興は、精神的に大きなダメージを被った子ども達へのサポートに全力を傾注してきました。市は平成24年3月策定の復興計画に「音楽による生きる力を育む事業」として位置付け、エル・システムジャパンと連携し取り組んできました。

目標としてきた子どもオーケストラの編成も形となり、子どもたちの健やかな成長はもちろん、家族や学校、そして地域の大人たちが一緒になって発展してきていることは、復興への大きな励みとなっています。

2年目となる文化庁の支援や、今年から始めたふるさと納税によるご支援など、今後も多くの方々のお力添えをいただきながら、未来を担う心豊かな大人へと成長するよう取り組んでまいります。



平野公三 大槌町長

東日本大震災から6年目を迎えました。浸水区域の中心部では盛り土工事が進み、主要道路も路側帯と歩道がある本設道路に少しずつ変わり始めました。本年9月には念願の「大槌学園」新校舎が完成し、子どもたちは5年間の仮設校舎での学校生活を終えることになります。

着実に復興が進んでおりますが、本町の子どもたちの約3割は未だ仮設住宅での生活を余儀なくされ、放課後の学習支援・居場所の確保を必要としております。

このような中、2年前にエル・システムジャパン様と協定を交わし、音楽活動を中心とした継続的なご支援を戴いております。貴団体の活動により、普段触れられないバイオリンから生み出されるメロディーや、著名な講師の方々が直接指導してくださる本物の音楽は、子どもたちの心に染み入り、癒しと豊かな感性を磨く素晴らしい機会となっております。また、週末に開催される弦楽器教室は、地域の幼児から高齢者まで参加するほほえましい交流の場となっております。

今後も末永く大槌町のよきパートナーとして、子どもたちの豊かな育ちと確かな学びの保障に継続してご支援ご協力くださいますようお願いいたします。



©FESJ/2015/Yutaka Kukugawa

東日本大震災で被災した子どもたちが音楽での経験を通して、自信や尊厳を回復し、自分の人生を切り開いていく「生きる力」を育むことを目的に、エル・システマジャパンは活動を行っています。

エル・システマは、1975年に南米ベネズエラで始まり、現在では60カ国以上で活動が行われている教育プログラムです。皆で参加するオーケストラの形で学んでいくことを重視したエル・システマの芸術活動と教育理念が、特に東日本大震災によって厳しい状況にさらされて心身ともに影響を受けている子どもたちの尊厳を回復し、希望を与えることができるのではないかなという信念のもと、活動を展開しています。

エル・システマ(EI Sistema)とは



南米ベネズエラでホセ・アントニオ・アブレウ博士によって始められた社会変革を目指した音楽教育です。エル・システマは、英語のThe Systemと同意のスペイン語

です。1975年、貧困層の拡大、治安の悪化という問題を抱えていたベネズエラで、子どもたちを犯罪や非行、暴行などから守ることを目的に始めました。40年以上も取り組まれたベネズエラでは今日、約40万人の子どもたちが参加、政府からの年間予算が65億円規模という国家プログラムに発展しています。この活動は、世界的に活躍する若手指揮者グスターボ・ドゥタメルなど多くの一流音楽家を輩出しているだけでなく、学業面も含めて青少年の育成にポジティブな影響を与えてきていることで、ユネスコ、米州開銀等の外部機関からも評価されています。

エル・システマの3つの理念

1. すべての人が経済的事情を懸念することなく、音楽、芸術にアクセスできることを保障する
2. 集団(特にオーケストラ)での音楽、芸術活動を通じ、コミュニケーション能力を高める
3. 社会規範と自己の個性の表現を両立することを音楽体験を通じて学ぶ

活動内容

音楽を通して、 生きる力を育む

直接的な支援

子どもオーケストラ
音楽教室、夏期集中講座、講習会、各種コンサートの実施

体験教室

子どもコーラス
合唱教室、各種コンサートの実施

作曲教室

学校を通じた支援

部活動支援
弦楽合奏、合唱、吹奏楽、金管バンド

音楽授業支援
鑑賞教室

専門家の派遣
新たな講師への研修

総合的な支援

**楽器の
購入・修繕**



©FESJ/2015/Mariko Tagashira

2012年3月に設立されて以来、地元の人々の郷土愛に基づくアイデンティティを大切にし、地域とともに育む音楽教育を実施してきました。2016年3月末現在、支援対象地域は福島県相馬市と岩手県大槌町の2カ所です。



福島県相馬市 2012年5月～2016年3月現在



一千有余年の歴史と伝統を持つ「相馬野馬追」で知られる福島県相馬市。民謡などの伝統芸能や1950年代からは器楽や合唱などが盛んに行われ、多くの人が音楽と深く関わっています。震災以降は、津波・原発事故と幾重もの被害により、子どもたちは内面的外的の影響を長く受けています。文化芸術による心の復興を目指し、日本ではじめてのエル・システムの活動は相馬市にて立ち上がりました。

週末音楽教室参加者数

年齢	オーケストラ	コーラス
未就学児	1名	—
小学生	52名	50名
中学生	17名	18名
高校生	1名	—
合計	71名	68名

学校への支援

相馬市内小学校：10校

中村第一小学校・中村第二小学校・桜丘小学校・飯豊小学校・大野小学校・山上小学校・玉野小学校・八幡小学校・磯部小学校・日立木小学校

日々の活動

平日(日中)：学校の授業(含む鑑賞教室)、及び部活動支援として音楽専門家が出向き支援

平日(夜)：小5以上を対象とした弦楽器自主練習会
金曜：相馬子どもコーラス

土曜(午前)：相馬子どもオーケストラ、初級(ひつじチーム)
(隔週午後)：相馬子どもオーケストラ習熟度、楽器別グループレッスン

日曜(午前)：中級(バッハチーム)
(午後)：上級(モーツァルトチーム、ベートーヴェンチーム)

練習場所：5カ所

相馬市総合福祉センター(通称・はまなす館)、相馬市民会館、道の駅そうま、LVMH子どもアート・メゾン、相馬市防災備蓄倉庫

全体としての裨益者数(学校への支援を含む)

約2,000名

岩手県大槌町 2014年6月～2016年3月現在



「虎舞」に代表される豊かな郷土芸能が息づく岩手県上閉伊郡大槌町。東日本大震災では、人口あたりの死者・行方不明者数が最も多いと言われるほど深刻な被害を受け、今でも多くの子どもたちが、仮設住宅、仮設校舎での生活を余儀なくされています。制限のある仮設環境で生活する子どもたちにとって、のびのびとしていられる新しい居場所づくりを目的とした音楽教育を目指しています。

放課後・週末音楽教室参加者数

年齢	オーケストラ
未就学児	6名
小学生	13名
中学生	—
高校生	—
合計	19名

学校への支援

吉里吉里学園小学部(鼓笛隊)、大槌学園中学部(吹奏楽部)、吉里吉里学園中学部(音楽部)、大槌高等学校(吹奏楽部)

日々の活動

平日(午後)：放課後バイオリン教室(こどもセンター、吉里っ子スクール、英語教室)

土曜(午前)：週末弦楽器教室(未就学児、大人含む)
(上町ふれあいセンター)

練習場所 3カ所

子どもセンター
吉里っ子スクール
上町ふれあいセンター

全体としての裨益者数(学校への支援を含む)

約70名

大槌町での活動も軌道にのり、相馬では4月から週1回の子どもコーラスの活動も始まりました。

相馬や大槌の子どもたちは、ほぼ毎月、地域でのなんらかの発表の機会に恵まれて経験を積んでいます。



東日本大震災追悼式(相馬市主催)



第1回エル・システマ子ども音楽祭 2015 in 相馬



日米エル・システマ共同企画ドゥダメルと子どもたち



作曲教室

2015年1月～12月

- 1月24日～25日 大槌町の子どもたちが相馬市を初訪問、相馬子どもオーケストラと合同練習
- 3月1日 「第1回エル・システマ子ども音楽祭2015 in 相馬」を相馬市、相馬市教育委員会と共催
- 3月11日 「相馬市東日本大震災追悼式」にて、相馬子どもオーケストラ&コーラスの中核メンバーが所属する中村第一小学校器楽部と桜丘小学校合唱部が特別合唱と合同演奏
- 3月22日 大槌町のバイオリン教室の子どもたちが「大槌町スプリング・コンサート」に参加
- 3月26日～28日 相馬子どもオーケストラ&コーラスとユース・オーケストラ・ロサンゼルスとの交流プログラムを実施
- 3月29日 「日米エル・システマ共同企画ドゥダメルと子どもたち」を相馬子どもオーケストラ&コーラスとユース・オーケストラ・ロサンゼルスで公開リハーサル&コンサートとしてサントリーホールにて開催
- 4月11日 大槌町で大人のバイオリン教室を開始
- 4月14日 中川俊郎氏による作曲教室
- 4月26日 「こども環境学会」にて代表の菊川が「音楽を通して生きる力を育む：相馬子どもオーケストラ&コーラスの取り組み」を発表
- 5月30日 蒲池愛氏による作曲教室
- 6月13日 相馬市で週末弦楽器教室の新・ひつじクラスを開始
- 6月15日 大槌町で吹奏楽特別講師集中プログラムを実施
- 6月24日～25日 LAフィル リチャード・エレジーノ氏と所素子氏による玉野小、日立木小での鑑賞教室
- 6月27日 藤倉大氏と笹久保伸氏による作曲教室
- 7月11日 弦楽器指導アドバイザーである浅岡洋平氏が大槌のバイオリン教室で初指導
- 7月13日 おひさまアンサンブルによる山上小と八幡小での鑑賞教室
- 7月17日 「金子三勇士ピアノリサイタル」で相馬子どもコーラスが相馬市民会館にて共演
- 7月22日 「第3回東北青少年音楽交流会 MECP (Music Explore Concert Project) コンサート」を相馬市民会館にて開催
- 7月31日～8月2日 相馬市と大槌町の子どもが合同夏期学習会に参加

注：会計年度の変更にともない、2015年度は変則的に2015年1月から2016年3月とします。



テレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラとの共演



大槌町バイオリン教室のクリスマスコンサート



ドイツ公演



響け!復興へのハーモニー～つながる未来～

- 8月23日 名古屋市立汐路中学校吹奏楽部、仙台市の八軒中学校のOBの皆さんと相馬市のはまなす館にて交流と発表会
- 9月5日 中川俊郎氏と福原徹氏による作曲教室
- 9月7日 ボサノバ歌手小野リサ氏と相馬の子どもたちが交流
- 9月13日 「ふれあい敬老会」で相馬子どもオーケストラが演奏
- 10月3日 「仙台クラシックフェスティバル2015」に相馬子どもオーケストラが他地域のジュニアオーケと共に参加
- 10月31日 大槌町で体験教室を実施
- 11月5日 八幡小全校児童を対象にベネズエラ大使館の協力により、ベネズエラ音楽鑑賞教室を実施
- 11月22日 ベネズエラのテレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラと相馬子どもオーケストラが共演、交流プログラムを実施。歓迎演奏には、大槌町の子どもたちも参加。関連イベントとしてジャーナリストの池上彰氏と増田ユリヤ氏によるトークショー、「震災後の未来を拓くエル・システマ」を開催
- 11月29日 蒲池愛氏による作曲教室
- 12月13日 藤倉大氏とクレア・チェース氏による作曲教室、15日のチェース氏のコンサート(東京白寿ホール)にて一部作品が演奏される。
- 12月23日 大槌町で弦楽器教室のクリスマスコンサートを開催

2016年1月～3月

- 2月13日～14日 「第2回エル・システマ子ども音楽祭2016 in 相馬」を相馬市、相馬市教育委員会と共催
- 2月28日 大槌町の弦楽器教室の子どもたちがキッズコーラスあぐどめと大槌バラエティショーに参加
- 2月28日 相馬在住外国人コミュニティとの交流の場である「わくわくワールドフェスタ」に相馬子どもオーケストラが参加
- 3月8日～15日 相馬子どもオーケストラのドイツ公演ツアー(ベルリン・ライプチヒ)を実施
- 3月20日 那覇ジュニアオーケストラ主催の「響け!復興へのハーモニー～つながる未来～岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート」に相馬と大槌の子どもオーケストラ代表メンバーが参加

エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬



©FESJ/2016/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira

©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2016/Toshihiko Ochiai



旭くん(中2・コーラス)

©FESJ/2016/Mihoko Nakagawa

第1回エル・システマ子ども音楽祭2015 in 相馬」が2015年3月1日に、そして「第2回エル・システマ子ども音楽祭2016 in 相馬」が東日本大震災から5年という節目にあたる2016年2月13日と14日に、エル・システマジャパンと相馬市、相馬市教育委員会の共催にて相馬市民会館で開催されました。子どもを中心に自治体が主催するイベントは日本でもおそらく初の試みとなりました。

「第1回エル・システマ子ども音楽祭2015 in 相馬」は、吹奏楽、合唱、弦楽合奏、オーケストラ、コーラス・オーケストラ合同で構成されました。吹奏楽は相馬市立向陽、中村第一、中村第二中学校吹奏楽部合同バンドが「ようかい体操第1」などを演奏、合唱は桜丘小学校合唱部とOB・OGの中学生がハンガリー由来の「三つのわらべ歌」などをハンガリー語で歌い、相馬子どもオーケストラはパッヘルベル作曲の「カノン」を、そして相馬子どもコーラスは「お菓子の歌」を披露しました。また、子どもたちがフルオーケストラを体験できるようにとの配慮から、東京ベースの大学生オーケストラである Orchestra MOTIF が相馬まで足を運び、「くるみ割り人形」を一緒に演奏してくれたり、フィナーレの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」と「ハレルヤ」には地元で活動する大人合唱団の相馬合唱団エスポワールが参加してくれたり、多くのご協力をいただきました。

「第2回エル・システマ子ども音楽祭2016 in 相馬」は前年度より規模を拡大し、2日間にわたり開催。客席は子どもたちの保護者や親族の方たちのほか、「音楽を通して生きる力を育む」活動に関心のある地元の方たちや市外からのサポーターの方たちで大変な賑わいでした。1日目は相馬高等学校と相馬東高等学校の吹奏楽部が合同で、ヴェルディ作曲の「アイダ」、スーザ作曲の「星条旗よ永遠なれ」などを演奏しました。相馬子どもコーラスは、「三つのわらべ歌」や「さくらさくら」を歌ったほか、コーラス用に編曲された相馬の民謡を初披露。「相馬流れ山」には相馬民謡全国大会優勝者でもある伏見とみ子さんと尺八の陶正彦さんも参加してくださり、相馬ならではの味わい深い音が紡ぎ出されました。また、ソプラノ歌手コロネリかさんを舞台にお迎えして、「被爆のマリアに捧げる賛歌」を合唱。2日目は相馬子どもオーケストラが、バッハ作曲の「ブランデンブルグ協奏曲」、ベートーヴェン作曲の「運命」などを演奏したほか、こちらもオーケストラ用に初めて編曲された「相馬盆歌」で相馬の誇る伝統芸能で聴衆を存分に魅了しました。フィナーレは相馬子どもオーケストラ&コーラスに相馬合唱団エスポワールも加わり、「ハレルヤ」を盛大に大合唱して、スタンディングオベーションの中で、「子ども音楽祭」の幕は惜しまれながら閉じました。



相馬市役所秘書課・課長補佐
阿部勝弘さん

震災で傷ついた子どもたちに、音楽を通して生きる力を、との思いで相馬市から活動が始められたエル・システマジャパン。団体設立、市との協定締結から約3年で、こんなにも多くの子どもたちが、舞台上で立派に演奏できるようになるとは！真剣に、そしていきいきと演奏する姿に、心の底から感動しました。日々の練習で仲間と楽しんで音楽を作り上げていく子どもたちはもちろん、代表の菊川さんもおっしゃっていたように、保護者をはじめ地域の大人たちも一緒になっての活動に、大人たちが復興への大きな力、生きる力を育んでいただいていると思います。ご支援、応援、ご協力いただいているみなさん、ありがとうございます！



©FESJ/2016/Mihoko Nakagawa

力くん(小4・チェロ)
弓で弦を弾くのが楽しい。お母さんは忙しいのに今日は来てくれてうれしい。
力くんのお母さま
上達が早く、今では息子の方が楽譜を読めるんですよ。



冬華さん(中1・ビオラ)のおばあさま
もう上手でびっくりしました。2時間近くもよく弾くなあと感じます。クラシックコンサートといえば仙台まで出かけることが多かったけれど、こんな素晴らしい演奏が相馬で聴けるなら、もう仙台まで行く必要はありません。うちの孫は将来、音楽の先生になるかもしれないというくらい、音楽が好きなんですよ。



©FESJ/2015/Mariko Tagashira

来場した女性・60歳以上(終演後に回収したアンケートより)
＜子どもたちへ伝えたいこと＞ 音楽は生きる力になります。感動する心は受けとる姿勢がないとできません。苦を知ることでより楽が解るようになります。対立や差別にも、音楽によって結ばれる心があります。希望は決して裏切らない。音楽活動によって与えられた時間を生き、聴くものにも喜びを与え続けてください。



©FESJ/2015/Koichiro Kitashita



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira

「日米エル・システム共同企画 ドウダメルと子どもたち ～特別リハーサル&コンサート～」を2015年3月29日に、エル・システムジャパンとロサンゼルス・フィルハーモニックの主催、相馬市の共催でサントリーホールにて開催しました。春の訪れを告げるような、相馬子どもコーラスの「さくらさくら」から始まり、グスターボ・ドウダメル氏の指揮によるドボルザーク作曲の「交響曲第8番」より最終楽章の公開リハーサルと演奏が相馬子どもオーケストラとユース・オーケストラ・ロサンゼルス(YOLA)の共演という形式で行われました。アンコールは、チャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」よりロシアの踊り、それから相馬子どもコーラスも参加して、モーツァルト作曲の「アヴェ・ヴェルム・コルプス」がドウダメル氏の指揮により演奏されました。

ベネズエラで幼少期からエル・システムにおける音楽教育を受けてきたドウダメル氏は、「万人に音楽を」という哲学のもとに活動を続けています。このイベントでは、相馬とロサンゼルスの子どもが、19世紀のチェコの大作曲家の作品をドウダメル氏の指揮とともに奏でることにより、まさに時空や国境を越えて繋が

る音楽の力を体感できる機会となりました。ロサンゼルス・フィルハーモニックの理事長・CEOであるデボラ・ボルドグ氏からは、「エル・システムは、困難な状況にある子どもたちが美しいハーモニーを作っていくことで、自分自身がかけがえのない存在であることに気づき、自らコミュニティをつくっていくことを可能にします」というメッセージをいただきました。また、当日ご臨席いただいた高円宮妃久子殿下からは「エル・システムの第一の目的はコミュニティをつくることでしょうか。そこがこれまでの音楽教育とはまったく違うところですね」というお言葉をいただきました。



©FESJ/2015/Mariko Tagashira

隆行くん(小6・バイオリン)
(ドウダメルさんが)歌いながら指揮をするのにびっくりした。ユーモアがあってみんなを引っばってくれました。

テレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ相馬公演



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



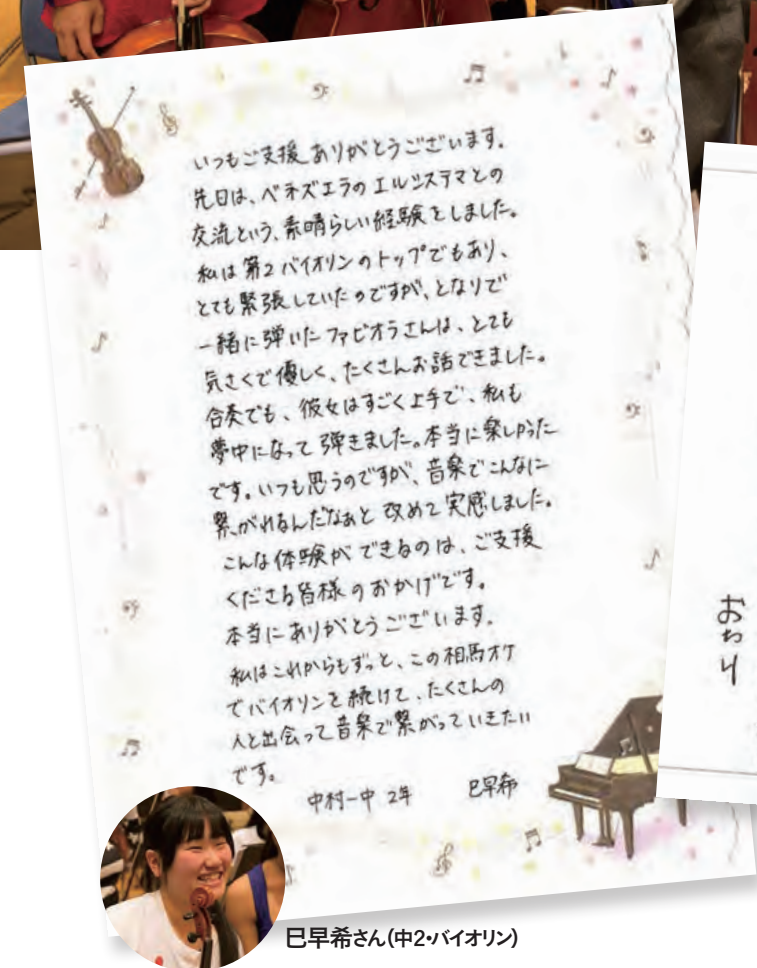
©FESJ/2015/Mariko Tagashira

本場ベネズエラのエル・システマ式オーケストラのテレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ(TCYO)が来日、2015年11月22日にエル・システマジャパンの主催、駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館、相馬市、相馬市教育委員会の共催で、相馬市民会館にて公演を行いました。アンコールの「マンボ No.5」では、TCYOの若者たちがラテンらしい陽気なパフォーマンスを披露。ピアニストの小曽根真さんも参加して、相馬の子どもたちと市民で沸く会場は熱気に包まれました。

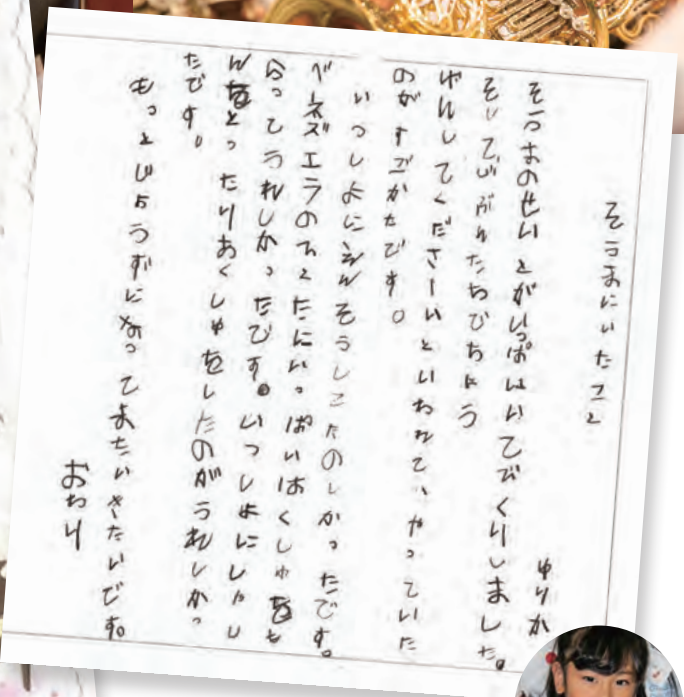
この公演に先立ち、相馬子どもオーケストラと大槌町から参加した8名は相馬市総合福祉センターで、TCYOの若者たちをモーツァルト作曲の「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の演奏で歓迎。続いて、エル・システマの創設者であるアブレウ博士のもとで学んだクリスチャン・バスケス氏の指揮で、ベートーヴェン作曲の「運命」を相馬子どもオーケストラとTCYOが公開リハーサルという形式で共演しました。交流プログラムでは、ベネズエラの若者から相馬と大槌の子どもたちへ TCYO のジャケット

の贈呈があったり、写真撮影会を行ったりと、両国の子どもたち総勢200名が国境や文化、言葉の違いを越えて友好を深める機会となりました。TCYOの楽団長であるアリソン・ロペラ氏からは、「相馬の子どもたちが私たちから学んだ以上に、今回(交流プログラム)の経験から私たちは学びました」というメッセージをいただきました。

また、関連イベントとして、ジャーナリストの池上彰氏と増田ユリヤ氏によるトークショー、「震災後の未来を拓くエル・システマ」も同日に開催。「エル・システマとは何か」、「なぜ、相馬なのか」、「どんな活動をしているのか」といった内容をわかりやすく説明いただきました。池上氏は最後に「パリの同時多発テロ事件に触れ、「テロを起こした若者たちがエル・システマのような教育プログラムを享受する機会があったら、あのようなテロも未然に防げたかもしれない」という発言でトークショーを締めくくりました。



巳早希さん(中2・バイオリン)



ゆりかさん(4歳・バイオリン)

©FESJ/2015/Frank Di Polo

ドイツ公演ツアー



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

フィルハーモニー
公演ポスター
「5年後の福島」

東日本大震災から5年という節目にあたる2016年3月、相馬高校、相馬東高校吹奏楽部員を含む相馬子どもオーケストラ代表メンバー37名がベルリン日独センターに招待され、ドイツのベルリンとライブチヒにて3回の公演を行いました。エル・システムジャパンの活動は、震災後に訪日したベルリン・フィルハーモニーの団員が、「今、東北には音楽が必要だ」と提案したことをきっかけに始まりました。その後もベルリン・フィルの有志たちはチャリティーコンサートなどを通じて、活動資金の調達にも積極的に協力してくれたという経緯があります。このドイツ公演ツアーでは、これまで応援してくれたベルリン・フィルの団員たちとの絆を深めるとともに、ドイツの方々に東北の復興と感謝の気持ちを伝えるべく、子どもたちはひとつひとつの音色を大切に奏でました。

ベルリン・フィルハーモニーでの「運命」

ドイツでの最初の公演は、東日本大震災からちょうど5年を迎える3月10日(日本時間:3月11日未明)、世界最高峰音楽ホールであるベルリン・フィルハーモニーにて、ベルリン・フィルの有志メンバーとベルリン在住音楽家たちとの共演でした。曲目はベートーヴェンの交響曲第5番「運命」。子どもたちはベルリン・フィルの一流奏者たちから本番前に直接指導を受け、短時間のあいだに驚くほど上達しました。本番は、スタンリー・ドッズ氏の指揮のもと、息をのむような導入で始まり、最初から最後まで強く美しく希望にあふれた「運命」が響きわたりました。「ブラボー！」の歓声と拍手に会場は沸き、アンコールでは相馬ゆかりの「相馬盆唄」を披露。元気な子どもたちのかけ声で始まる盆唄に、会場はスタンディングオベーションで拍手が長くこだましました。

ベルリン日独センターでの演奏会

今回のドイツ公演ツアーは、ベルリン日独センターの方々のご支援により実現しました。その感謝の意を表して、ベルリン日独センターでは、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、「アヴェ・ヴェルム・コルプス」、そして日本ゆかりの曲が編曲されている「Japanese Wind II」などを演奏。アンコールには「相馬盆唄」で応え、スタンディングオベーションで演奏会を終えました。

音楽の都・ライブチヒのトーマス教会にて

最後の公演は、ベルリン日独センター、ライブチヒ日独協会、バッハ博物館の全面協力を得て、音楽の父・バッハの眠るトーマス教会にて行われました。バッハ博物館での相馬市の佐藤副市長とエル・システムジャパン代表の菊川の報告会の後、トーマス教会で子どもたちが「Japanese Wind II」、バッハ作曲の「ブランデンブルグ協奏曲第2番」や「G線上のアリア」などを演奏。なかでも、「G線上のアリア」は震災から5年という節目の追悼曲として演奏され、ライブチヒの方々と共に東北の被災地へ想いを馳せてくださいました。神々しい雰囲気教会に柔らかく透みきった音が響きわたり、その美しさに会場では涙を流す人もいました。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
バイオリン奏者
スタンリー・ドッズさん
(相馬子どもオーケストラとの共演では指揮を担当)

相馬子どもオーケストラの子どもたちに出会い、一緒に音楽を作り上げることは大きな喜びでした。リハーサルでの一番はじめの音からコンサートの最後の和音まで、子どもたちは常に溢れんばかりの魂の輝きと喜びを表現していました。楽器を習い始めてからまだ比較的日子が浅い子どもでも、驚くべき力を発揮してくれました。相馬子どもオーケストラのプロジェクトは、子どもたちに音楽と一緒に作る素晴らしさを分かち合うというかけがえのないチャンスを与えています。それは、子どもたちがさらに家族や聴衆とも分かち合える「贈り物」でもあります。音楽を通じて幸せが続くことを心より祈っています。

知笑さん(小3・バイオリン)

応援してくれる皆さんのおかげで頑張っています。福島は元気だよ、と伝えたい。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira



冬華さん(中1・ビオラ)

©FESJ/2015/Mariko Tagashira

名前(冬華)

「楽しい」それが私がベルリンの方々と一緒に演奏させて頂いた時の第一印象でした。楽しいのは、ベルリンの方の隣で演奏させて頂くと、何かが自分もすぐに弾けている気分になったからです。そして、いつもの合奏よりもより一体感と大きく感じられたからです。2日目のベルリンの方々とリハーサルのパート練習では、ヴァイオリン1対1(3対3)で練習させて頂いたため、自分の苦手なところや音程が悪いところを入念に教えて頂きました。1対1ということもあり緊張してしまいましたが、このとてもとても貴重な体験を贅沢に過ごさせて頂きました。今まで支援してくださった方を始め、周りの支えてくださっている方々、そしてベルリンの方々に改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。朝花の日も、色々な名所を1つ1つ説明してもらいとても充実していました。すごく楽しかったです。その中でも一番印象に残ったのは、楽器博物館に行ったことです。バイオリンを始め、ヴァイオリン、コントラバスがたくさんありました。楽器の形が彫られていたり、特徴的な形の楽器があったりと新しい発見がたくさんありました。弾くのも楽しいけれど、見るのもいいなって素直にそう思いました。これからの目標は、まず続けることです。この経験は必ず大人になって誇れるものだと私は思っています。そのためには、上手になるための練習を欠かさないことです。いつも前を見て上を目指してがんばりたいです。そして周りを見えないところまで支援、応援してくださっている方々に感謝の気持ちを忘れずに活動したいです。ドイツに行って私は、集団行動をしていく中で、時間を守る大切、仲間を(友達を)思いやり、気遣う大切さを実感しました。これから仲間を大切にしながら活動していきます。この演奏旅行をきっかけに友達との絆がすごく深まった気がします！もと絆を深められたらいいなと思います。



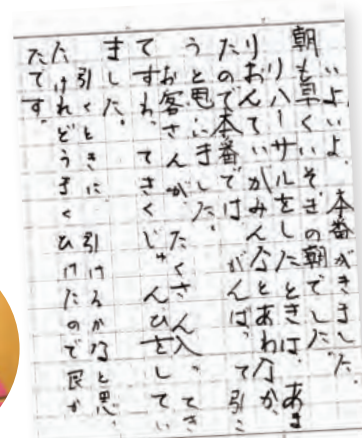
東日本大震災の被災3県と那覇市のジュニアオーケストラによるコンサート、「響け!復興へのハーモニー～つながる未来～ 岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート」が2016年3月20日、一般社団法人琉球フィルハーモニックの主催、第4回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞の助成で那覇市のパレット市民劇場で開催され、エル・システマジャパンから相馬市の子ども4名、大槌町の子ども3名が参加しました。各地から集まった子どもたちは前日に合同練習、そして本番前に通し稽古をして臨み、本番ではびったりと息のあったハーモニーを響かせました。ビゼーやモーツァルトの名曲のほか、沖縄の「島人ぬ宝」や東北3県の「相馬盆唄」、「青葉城恋唄」、「ひょっこりひょうたん島」といったメロディーが心をひとつにして奏でられ、満員の会場は大いに盛り上がりました。なかでも、今回の機会のためにも様々な協力をしてくださった在沖縄岩手、宮城、福島県人会の方々非常に喜んでくださいました。

朱音さん(中3・ビオラ)

震災直後は学校が避難所になり、楽器にも触れず悲しかったけれど、次第に演奏する機会もでき、さらに今回のような体験ができて幸せ。いつかまた、相馬市で一緒にコンサートをしたい。



千翼さん (小5・バイオリン)



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



©FESJ/2015/Mariko Tagashira



現場の声

相馬プロジェクト楽器修理・リペア担当 後藤賢二さん



©FESJ/2016/Mihoko Nakagawa

子どもと接する時には、「やさしく、話をよく聞く」をモットーにしています。音楽を学ぶ環境は、子ども、保護者、指導者がそろわないと成立しません。保護者が子どもの演奏を聴きに行き、家に帰ってから子どもと演奏の話をすると、コミュニケーションが深まるというサイクルが生まれます。音楽をやっている子どもは、やさしい子どもが多いと思います。音楽は子どもを育てます。保護者の皆さんには、お子さんのできていない部分に目をやるよりも、いいところを褒めてあげてほしいと思います。ひとつでもいい音を出せたら、「よくできたね」というように。それがリズム感であったり、楽譜の読み方であったり、何でもいいのです。

子どもと接する時には、「やさしく、話をよく聞く」をモットーにしています。音楽を学ぶ環境は、子ども、保護者、指導者がそろわないと成立しません。保護者が子どもの演奏を聴きに行き、家に帰ってから子どもと演奏の話をすると、コミュニケーションが深まるというサイクルが生まれます。音楽をやっている子どもは、やさしい子どもが多いと思います。音楽は子どもを育てます。保護者の皆さんには、お子さんのできていない部分に目をやるよりも、いいところを褒めてあげてほしいと思います。ひとつでもいい音を出せたら、「よくできたね」というように。それがリズム感であったり、楽譜の読み方であったり、何でもいいのです。



©FESJ/2013/Mariko Tagashira

フェロー(演奏指導ボランティア) 飯田佑理子さん

活動の中で私が最も変化を実感し、素晴らしいと感じているのは、音楽に一生懸命に打ち込む子どもたちの成長はもちろん、子どもオーケストラを取り巻く大人たちの変化です。普段の練習の中ではわが子のみならずその友達のことも大切にし、時には叱り、「第2回子ども音楽祭」では多くの方が受付や舞台裏などのお仕事をかって出てくださいました。こういった積み重ねを経ながら、子どもたちやオーケストラを中心とした強いコミュニティが成長していく、その一端を担うことができるのがフェローとして何よりの喜びだと感じています。

大槌町巡回型カウンセラー 吉永弥生さん



©FESJ/2016/Yutaka Kikugawa

カウンセラーとして子どもたちと話をしている中で「一番楽しいことは何?」と聞くと「バイオリン!」とかえってきたりします。「だんだん上手にひけるようになってきた。」と嬉しそうに話す顔を見ていると、こうした生き生きとした体験が子どもたちの支えになっていることを実感します。



©FESJ/2015/Takaaki Dai

大槌プロジェクト弦楽器指導担当(当時) 山本綾香さん

大槌の子どもたちは、何と言ってもエネルギーがすごい。日々身体いっぱい、楽器に取り組んでいます。教室の内外で、置かれた環境や人間関係から生まれる葛藤を乗り越えようと闘っている姿は、見ているこちらが感心することばかりです。そして、人を喜ばせたいという気持ちに溢れています。生粋のエンターテイナーで、その発想には驚かされることもしばしばでした。子どもたちがその元気であらゆる困難を跳ね返して、エル・システムを通して音楽を仲間と共に作りあげる感動体験をたくさん積み、人生の糧としていくことを願っています。

外部評価 調査報告

2015年度 相馬子どもオーケストラプロジェクトにおける週末弦楽器教室に関する報告書

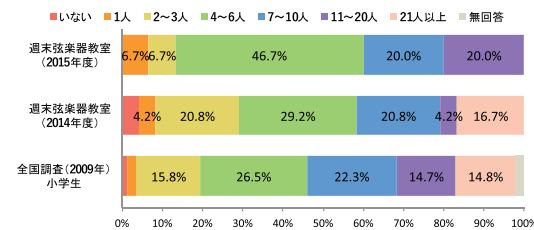
報告書の全文はホームページよりダウンロードいただけます。
http://www.elsistemajapan.org/#/soma-childrens/cie5

エル・システムジャパンは、活動成果を客観的に評価し、今後の活動の方向性を定めていくために、2013年度より青山学院大学の苅宿俊文教授にご協力いただき、外部評価調査を実施しています。今年度の調査は過去2年間に得たデータを踏まえ、活動の経年的な変化を明らかにすることを目的としました。また、「音楽活動によるコミュニティの形成」という尺度で活動を詳細に分析するため、これまでの調査方法に加え、活動の中核をなす関係者のインタビューや対談も行いました。

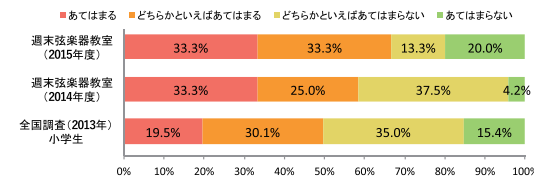


アンケート調査結果 子ども

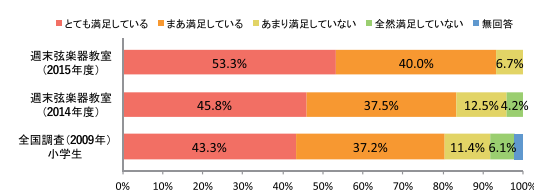
◆日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち



◆友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意



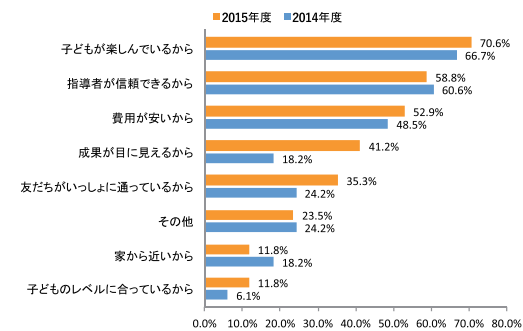
◆自分が住んでいる地域



子どもたちには安定した交友関係がうかがえる一方、その関係の構築スタイルは学校生活、地域の環境、週末弦楽器教室における人間関係の深まりなどの要因によってなのか、変化しつつあることがわかりました。子どもたちのコミュニケーションに関する調査では、全国調査よりも肯定的な回答が得られ、子どもたちが自らに自信を持てるような環境が整っていることがうかがえました。また、子どもたちが地域への愛着を持って育っており、週末弦楽器教室が子どもたちの成長を支えるためのコミュニティ全体を巻きこみ、地域の一体感を醸成していることがわかりました。

アンケート調査結果 保護者

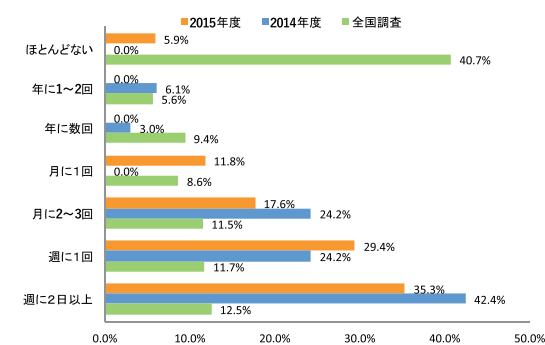
◆週末弦楽器教室の活動を選んだ理由 (2015年度上位8項目)



◆音楽や芸術の活動を通して子どもが成長している



◆子どもと音楽に関わる話をする



「週末弦楽器教室の活動を選んだ理由」の上位3項目は前年度の調査結果と同様で、子どもにとってポジティブな環境が維持されていることがわかりました。「成果が目に見えるから」という理由は、活動が長期的に続いてきたことから、子どもの技術が向上したこと、保護者が活動に積極的に参加するようになり、子どもたちの演奏を聴く機会が増加したことなどが要因として挙げられます。また、「子どもと音楽に関わる話をする」という設問では、全国平均と比較して40.5%も上回り、音楽という媒介を通じて、親子がコミュニケーションをとっている様子がうかがえました。

注: 全国調査は、ベネッセ教育総合研究所の「第2回学校外教育活動に関する報告書2013」と「第2回子ども生活実態基本調査報告書(2009年)」、栃木県総合教育センターの「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート調査～集団における望ましい人間関係づくりに関する調査研究～(平成19年度調査研究事業)」、千代田区の「地域コミュニティに関する区民アンケート調査」を参考にしました。

青山学院大学 社会情報学部 苅宿 俊文 教授



「週末弦楽器教室」は、単に演奏技術が上達するということだけではなく、演奏に納得できていく自分自身を通して見える他者との関わりや、他者とのつながりの中で自分が果たしうる役割の発見などを通して、そこでは、自分をわかるためのいくつかの道筋が見えてくる。自分が他者の音に重ねるということ、それを互いが行い合うということ、それを前提条件として成立しているのがオーケストラなのである。互いに敬意を持ち、合奏するという協動的な行為に参加すること、そのことが子どもたちにとって、社会に参加するということのシミュレーションになっているのである。(本報告書の「はじめに」より抜粋)

エル・システムジャパン 浅岡 洋平 弦楽器指導アドバイザー



最初に指導計画書みたいなものは提出していたんですが、(中略)現地の状況は常に変わるので、随時出てくる問題に対して、その都度どういう手段を講じるかという試みの連続だったと思います。音楽芸術の最高峰のシンフォニーを音楽にまったく興味のない子どもたちにかかにしてトライさせるか、これは非常に難しい課題です。あらゆるものがないいづくしで始まる、だからこそ、さまざまな困難があるにせよ、一番核になるのは欲する心なんだと思います。ステージで音楽に包まれる体験っていうのは、子どもにとってもすごい刺激として体に入ってくるんです。スイッチが入った友達や先輩が、その楽団のまとまりにとって重要な刺激になるんですよ。彼らのエネルギーに全体が引っぱられるんです。彼らの真摯な取り組み方や努力の仕方をモデルにして学べるというのが理想ですね。3年を経て、そういった手本になるリーダーたちが頭角を現してきたので、ここからちょっと変わると思いますね。(本報告書の「苅宿教授との対談」より抜粋)





アーティストからの メッセージ



金子 三勇士さん

東日本大震災復興支援事業の一環として、相馬市で演奏させていただきました事を大変光栄に思います。公演を実現してくださったアーカイト日露友好協会、エル・システムジャパンの皆様に心から感謝申し上げます。

今回一緒にさせていただきました相馬子どもコーラスの皆様は、私のもう一つの故郷ハンガリーの作品を歌ってくださいました。あまりにも素晴らしい演奏に、共演の瞬間でありながらも感激と感動で涙が出てしまいました。古橋先生の熱いご指導と、お子様お一人お一人の優しい歌声が一つのハーモニーとなり、会場にいらした全ての方の心に強く響いた事と思います。

音楽は世界共通言語です。次回もまた皆様と一緒に日本、そして世界の人々に音楽を届けられます日を楽しみにしております！



ご協力いただいた
アーティスト

今年度も国内外のアーティストの方々に活動を支えていただき、エル・システムの理念でもある、一流の芸術を子どもたちに届けることを実現できました。心より御礼申し上げます。



■ご協力いただいたアーティスト

イタマール・ゴラン(ピアノ)
今井祐花(ピアノ)
大鹿由希(バイオリン)
大谷康子(バイオリン)
大平倍大(テノール)
上杉理香(バイオリン)
上原千穂(バイオリン)
小曽根真(ピアノ)
小野リサ(ボーカル)
金子三勇士(ピアノ)
ガブリエル・タカノ・デ・ドンノ(コントラバス)
蒲池愛(作曲)
川満恵一郎(サクソ)
菊地理恵(バイオリン)
清田裕里江(パーカッション)
グスターボ・ドゥダメル(指揮)
クリスチャン・バスケス(指揮)

クレア・チェース(フルート)
小菅優(ピアノ)
コロネりか(ソプラノ)
笹久保伸(ギター)
シュテファン・シュヴァイゲルト(ファゴット)
スタンリー・ドッズ(指揮)
臺隆裕(トランペット)
竹森かほり(クラリネット)
ダニエル・スタブラヴァ(バイオリン)
千葉直美(ピアノ)
綱川淳美(パーカッション)
テレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ(オーケストラ)
陶正彦(尺八)
所素子(バイオリン)
戸田博美(トランペット)
中川俊郎(作曲)
ニコラウス・レーミッシュ(チェロ)
バーバラ・ケーリク(コントラファゴット)

橋本顕一(ビオラ)
長谷川基(ビオラ、指揮)
濱田志穂(ピアノ)
ハンス・シュトックハウゼン(コントラバス)
ハンデ・キューデン(バイオリン)
ハンナ・モルガン(オーボエ)
ピロツァー・ジムニック(コントラバス)
フィリップ・ボーネン(バイオリン)
フェリスフラウエンコーア(コーラス)
福原徹(篠笛)
藤倉大(作曲)
伏見とみ子(謡)
Juan Felipe Molano(指揮)
ホアン・ルーカス・アイゼンベルグ(ビオラ)
細野京子(ピアノ)
マーカス・バーガイアー(ホルン)
マノン・ジラールドー(チェロ)
マレック・シュバキエヴィッチ(チェロ)

モーリス・レイナ(クワトロ)
山内知子(ピアノ)
ヤンネ・サクサラ(コントラバス)
湯浅真帆(サクソ)
ユリアンナ・アヴデーエフ(ピアノ)
吉川武典(トロンボーン)
吉澤陽子(アルパ)
米沢美佳(バイオリン)
ライラ・ヴェーパー(ビオラ)
ラッキイ池田&彩木エリ(振付)
ラヘル・シュミット(バイオリン)
リチャード・エレジーノ(ビオラ)
ルートヴィッヒ・シュルツェ(ビオラ)
ロヴェーナ・スベアリット=ドッズ(チェロ)
ロッコ・レッシェニョ(トロンボーン)

敬称略、五十音順 2015年1月1日～2016年3月31日の期間



謝辞

今年度も多くの個人、団体、企業の皆さまよりご支援をいただき、エル・システマジャパンの活動を実施することができました。皆さまのご厚意に心よりお礼申し上げます。

■ご協力頂いた個人、企業、団体

IPPNW-Concerts
一般社団法人アーカイト日露友好協会
アークヒルズクラブ
芦屋国際中等教育学校コーラス部
青山学院大学
株式会社AMATI
池上彰
Seiko Ishikawa
いちのみや音楽祭実行委員会
一家明成
株式会社インプレザリオ
Wheeler Foundation
LVMH モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン・ジャパン株式会社
遠藤美江
オアシス楽器
大谷雅子
一般財団法人音楽の力による復興センター
角谷真路
株式会社KAJIMOTO
カップルが走って日本縦断 震災復興支援！
川原直
Kimono Girls in London
特定非営利活動法人 GIFTHOPE
Gustavo Dudamel
gooddo 株式会社
クラリス・オーケストラ
栗山明奈
国際交流基金
コニカミノルタ株式会社
コロネりか
斎藤紀子
株式会社サイバードホールディングス
在ドイツ日本国大使館
坂間裕見子
サクソバンクFX証券株式会社
株式会社サダマツ
Zapuni
サントリーホール
ジオアステクノ株式会社
Siegfried Lörcher
芝崎智子
清水道子
株式会社新潮社
真如苑
新藤理圭
鈴木秀太郎コンサート・緑友同窓会有志実行委員会
瀬川邦子
全日本空輸株式会社
仙台市/仙台ジュニアオーケストラ
ソウ・エクスぺリエンス株式会社
Taiko Connection Berlin
武田薬品工業株式会社(武田GmbH)
津田大介
常見知生
株式会社電通
一般社団法人東京倶楽部
桐朋女子中・高等学校PTA厚生部
西村晴子
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本電気株式会社
日本ベネズエラ協会
日本・ラテンアメリカ婦人協会

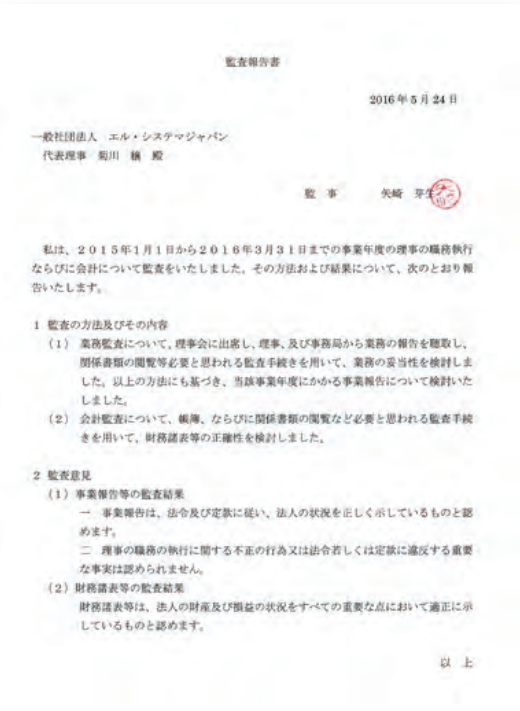
ニューヨーク祝祭管弦楽団
株式会社白寿生科学研究所
Bach Museum Leipzig
株式会社ホテルオークラ東京
ハルモニア・フォンテ
Hilti Foundation
Fundación Musical Simón Bolívar
復興の和チャリティーコンサート実行委員会
フォレストホーム株式会社
舟越一郎 (funaco design studio)
フェリス女学院大学音楽学部
NPO法人ザ・プレスト・カウンスル
文化庁
Peter Hauber
駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館
ベルリン独日協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Berlin)
ベルリン独独センター (Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団財団
堀主知ロバート
増田ユリヤ
松木真知子
松野敦子
松本真知子
真鍋康正
水野真里子
三多隆志
株式会社ミツエーリンクス
Musik Platz/上原千穂
ミーレ・ジャパン株式会社
ミネ・シュティムメ
最上沙紀子
森桂子 & Marek Szpakiewicz
文部科学省
ヤフー株式会社
株式会社ヤマハミュージックジャパン
Yulianna Avdeeva
横浜東ライオンズクラブ
横浜東レオクラブ
吉江一男
ライブチヒ独日協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Leipzig)
楽天株式会社
一般社団法人琉球フィルハーモニック/那覇ジュニアオーケストラ Rewari
Hotel Berlin
Los Angeles Philharmonic
若林直子

■エル・システマ40周年記念事業ご支援者

伊藤忠商事株式会社
国際石油開発帝石株式会社
千代田化工建設株式会社
日揮株式会社
株式会社白寿生化学研究所
株式会社パソナグループ
丸紅株式会社
三井物産株式会社
三菱商事株式会社

2015年1月～2016年3月の間に原則5万円以上のご寄付、及びボランティアで各種技術協力を下さった方々のお名前を、ご本人の了承を得た上で掲載させていただいております。(敬称略、五十音順)

監査報告書



平成27年度 貸借対照表

平成28年3月31日現在[税込](単位:円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	
現金・預金	
現 金	90,680
ゆうちょ 普通	81,355
三菱東京 UFJ 普通預金	535,310
現金・預金 計	707,345
売上債権	
未 収 金	31,877,345
売上債権 計	31,877,345
棚卸資産	
棚卸 資産	149,246
棚卸資産 計	149,246
その他流動資産	
仮 払 金	54,891
その他流動資産 計	54,891
流動資産 合計	32,788,827
固定資産	
有形固定資産	
楽器 類	4,620,000
減価償却累計額	△ 2,711,808
有形固定資産 計	1,908,192
投資その他の資産	
敷 金	550,000
投資その他の資産 計	550,000
固定資産 合計	2,458,192
資産の部 合計	35,247,019

負債の部

流動負債	
未 払 金	14,205,055
前 受 金	126,080
預 り 金	307,149
未払消費税	254,400
流動負債 計	14,892,684
負債の部 合計	14,892,684

正味財産の部

正味財産	
前期繰越正味財産額	26,642,842
当期一般正味財産増減額	△ 12,737,717
当期指定正味財産増減額	6,449,210
正味財産 計	20,354,335
正味財産の部 合計	20,354,335

負債・正味財産の部 合計	35,247,019
-------------------------------	-----------------------------

平成27年度 正味財産増減計算書

平成27年1月1日～平成28年3月31日(単位:円)

科目	事業会計	法人会計	合計
----	------	------	----

I. 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
正会員受取会費		36,000	36,000
賛助会員受取会費	2,280,000	570,000	2,850,000
受取助成金等			
受取民間助成金	1,799,186		1,799,186
受取公的助成金	3,781,000		3,781,000
受取公的補助金	22,543,000		22,543,000
受取公的補助金(市、国)振替額	13,477,405	340,903	13,818,308
受取寄付金			
受取寄付金(個人)	7,989,945	420,523	8,410,468
受取寄付金(企業・団体等)	11,665,340	613,965	12,279,305
受取寄付金(TCYO交流事業)	5,290,000		5,290,000
受取寄付金振替額	7,609,235	845,470	8,454,705
事業収益			
事業収益	3,066,930		3,066,930
受託事業収益	15,017,767	1,668,640	16,686,407
雑収益			
受取利息		3,322	3,322
雑収益		1,795	1,795
経常収益計	94,519,808	4,500,618	99,020,426
(2)経常費用			
事業費			
現地事業費(相馬)計	79,430,001		79,430,001
現地事業費(大槌)計	14,023,543		14,023,543
広報資金調達事業費 計	9,586,597		9,586,597
事業費計	103,040,141		103,040,141
管理費計		9,090,468	9,090,468
経常費用計	103,040,141	9,090,468	112,130,609
当期経常増減額	-8,520,333	-4,589,850	-13,110,183

2. 経常外増減の部

(1) 経常外収益			
過年度損益修正益		372,466	372,466
経常外収益計		372,466	372,466
(2) 経常外費用			
経常外費用計			
当期経常外増減額		372,466	372,466
当期一般正味財産増減額	-8,520,333	-4,217,384	-12,737,717
一般正味財産期首残高	9,275,237	3,549,297	12,824,534
一般正味財産期末残高	754,904	-668,087	86,817

II. 指定正味財産増減の部

受取寄付、補助金等			
受取寄付金	25,850,001	2,872,222	28,722,223
受取公的補助金			
一般正味財産への振替額			
寄付金の振替額	7,609,235	845,470	8,454,705
公的補助金の振替額	13,477,405	340,903	13,818,308
当期指定正味財産増減額	4,763,361	1,685,849	6,449,210
指定正味財産期首残高	13,477,405	340,903	13,818,308
指定正味財産期末残高	18,240,766	2,026,752	20,267,518

III. 正味財産期末残高	18,995,670	1,358,665	20,354,335
--------------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------

注:公的助成金のサイクルに合わせるため、2015年度は変則的に2015年1月から2016年3月の15ヶ月間を対象としています。財務諸表の全文は、エル・システムジャパンのホームページ(<http://www.elsistemajapan.org>)よりご覧いただけます。

メディア掲載
一覧

昨年度も国内外の数多くのメディアによる取材を受け、エル・システマジャパンの活動を伝え
て頂きました。ウェブ、紙媒体で紹介された記事一覧です。

1月	岩手日報	バイオリン 心にリズム 大槌・児童が体験教室
	dacapo	世界を驚かせる音楽教室 エル・システマのキセキ-4- 対話が生み出す、新社会支援組織の挑戦！
2月	教育音楽小学版	音楽でひろがる社会
	sesame	被災地の子どものためのアソビやマナビを応援する企業の支援活動「豊かな感性を育む作曲教室も開催」LVMH 子どもアート・メゾン
	dacapo	世界を驚かせる音楽教室 エル・システマのキセキ-5- 仲間と育つ。オーケストラ教育の創る森の生態系。
	Edukids	【Edukids スペシャルインタビュー】復興の地から、世界最大の合奏型音楽教室を エル・システマジャパン代表 菊川穰さん
3月	海外子女教育	音楽の力で困難を乗り越える 東日本大震災被災地からの報告
	福島民友	音楽で生きる力を 相馬で子ども演奏会
	福島民報	子どもたち美しい響き 相馬で第1回エル・システマ音楽祭 オーケストラやコーラスが熱演
		がんばってます 相馬子どもオーケストラ音楽通じ成長応援
	千葉日報	被災地への音楽の贈り物 ボランティアで楽器演奏指導 豊福裕梨奈さん＝千葉市出身 福島・相馬で“週末先生”
	福島民報	相馬 市長「御霊に恥じぬ復興を」
	福島民友	特集 東日本大震災4年 祈る2時46分
	LA Times	YOLA and a musical experiment in Fukushima, Japan
	福島民報	相馬と米国の子ども共演 29日、東京でオーケストラ
	福島民友	米の共演団体と相馬で合同練習 29日都内でコンサート
	福島民報	海外との絆 音が結ぶ 相馬とロサンゼルスの子童生徒 一緒に管弦楽演奏 コーラス隊も出演
	福島民友	米楽団と感動ステージ 相馬子どもオーケストラ
		子どもたちは今 周囲を幸せにしたい
	朝日小学生新聞	福島の子、夢の演奏会 相馬子どもオーケストラ&コーラス
	岩手日報	いまを生きる 大槌で子どもたちに弦楽器を指導する山本綾香さん 音楽通じ心を見
4月	広報そうま	表紙写真
	考える人	ドゥダメルと子どもたち
	Japan Times	El Sistema's music activities inspire youth across borders

	Edukids	[イベント体験レポート]日米エル・システマ共同企画「ドゥダメルと子どもたち」に行ってきたよ♪
	LA Times	L.A. Phil's YOLA players are goodwill ambassadors near Fukushima
5月	花咲く通信	相馬子どもオーケストラ＆コーラス大舞台へ
	教育音楽	音楽が、希望となれるように3年の集大成ドゥダメルと子どもたち特別リハーサル＆コンサート
	T JAPAN	To Play and to Struggle 福島・相馬の子どもたちが起こす音楽の奇跡
	SeRV	音楽の力で、被災地の子どもたちの“心の復興”を。
6月	和楽	若きカリスマ グスターボ・ドゥダメルの哲学
	日本経済新聞	日経ソーシャルイニシアチブ大賞特集 ファイナリスト東北部門
	リシェス	CHARITY 自らも「エル・システマ」出身者であるグスターボ・ドゥダメルの活躍と支援
7月	音楽現代	東北レポート 連載<29>『つながれ心、つながれ力』
	Japan Times	Building stronger bonds through music, youth exchange programs
	福島民報	復興の願い 歌にのせ 相馬子どもコーラス ピアニストと共演
8月	日本経済新聞	文化往来 アンゴラの楽団、国交40年記念し来日へ
	はろっくざー	わたしはメロマーヌ
	教育新聞	11月22日 音楽教育の復興イベント 福島県相馬市で
9月	福島民報	事故に気をつけて 相馬 磯部幼少がパレード
	広報そうま	エル・システマ オーケストラ公演 / スペシャルトークショー 池上彰氏＆増田ユリヤ氏
	音楽の友	Scramble Shot 「テレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ」相馬公演決定
	赤ちゃん和妈妈	“子どもたちが元気になることが地域の復興につながると思っています” 菊川穰さん 一般社団法人エル・システマジャパン代表
10月	広報そうま	表紙写真
	潮	南米「テレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ」相馬市民会館



トランベール 2016 年 1 月号

	朝日新聞	復興願い贈られた楽器たち 再会の響き イタリアから宮城・福島に届いた11丁
	Mercure des Arts	注目のコンサート(2015年11月)
	福島民報	ベネズエラのオーケストラ 来月22日、相馬公演
	日本経済新聞	オークラの家具いかが 旧本館建て替えてネット販売
	朝日新聞	オークラ備品をネット販売 旧本館、開業からの歴史刻む
	朝日オンライン	ホテルオークラの家具・備品、ネットで販売
11月	福島民報	ベネズエラ若手音楽団来訪 相馬の子どもら共演 エル・システマ
	福島民友	国境超え交響曲響く 相馬の子供 ベネズエラの楽団 独自の音楽教育結ぶ演奏
	毎日新聞	200人の「運命」に「ブラボー」 エル・システマで初の交流演奏会 「音の表現方法など学べた」
	読賣新聞	南米音楽家と子供ら共演 相馬で演奏会「無償教育制度」が縁
12月	25ans	グローバルブランド発 未来へつなぐ社会貢献活動
	セボネ	音楽でつなぐ子どもたちの未来

<2016年>		
1月	教育音楽	交響曲で国際交流 情熱の共演!
	トランベール	笑顔をもらって、笑顔で帰る。東北 元気めぐり 音楽の力を信じて
	ACT4	テレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ相馬公演
2月	広報そうま	お知らせ
	福島民報	訪独演奏へ練習に熱 相馬子どもオーケストラと地元高校37人
	福島民報	児童が琴演奏体験 相馬の桜丘小 生田流「そう美会」が訪問
	福島民報	震災5年 原発事故 5月7、8日相馬で開催 国際シンポ概要固まる
	読賣新聞	被災地から被災地へ
	福島民報	震災5年 原発事故 感謝の音色 ドイツへ響け ベルリンフィルと共演へ 相馬子どもオーケストラと高校生
	福島民友	「生きる力」音楽で表現 相馬
	井沢元彦(本)	日本人が知らない 世界中から愛される日本
3月	読賣新聞	震災支援 感謝込め 子どもオケ共演へ
	広報そうま	表紙写真



福島民報 2016 年 3 月 12 日号

3月	日本経済新聞	遠みち近みち 相馬に息づく子どもの音楽
	沖縄タイムズ	心一つに復興への調べ 被災3県と沖縄の子が共演
	TAGESSPIEGEL	Kinderorchester aus Fukushima gastiert in der Philharmonie
	産経ニュース	相馬子どもオーケストラがドイツで本格練習開始
	FNN TV	福島・相馬市の子どもたち、世界最高峰のオーケストラと共演
	共同通信	独で相馬子どもオーケストラ 力強く感情豊かに演奏
	産経フォト	独で力強く、感情豊かに「運命」 相馬子どもオーケストラ、ベルリン・フィルと競演
	東京新聞	相馬の子「ありがとう」の共演 ベルリン・フィルと「運命」披露
	共同通信	日独200人、被災地地思う 子どもオーケストラ演奏
	Frankfurter Allgemeine Zeitung	Fünf Jahre nach dem schwarzen Erdbeben im Osten Japans
	KULTUR	Japanische Kinder spielen bei den Philharmonikern
	福島民報	相馬子どもオーケストラと高校生 独に響く 力強い音色 ベルリン・フィルと共演
	福島民友	相馬子どもオーケストラ ベルリン・フィルと共演 支援への感謝 演奏に込め
		古里への思い調べにのせて 相馬子どもオーケストラ
	朝日新聞	復興への情熱 海外から響け
	BERLINER MORGENPOST	Japanische Kinder spielen bei den Philharmonikern
	産経新聞	世界から支援の響き 福島の子供 ベルリンで「運命」
	愛媛新聞	東日本大震災5年 福島「相馬子どもオーケストラ」ベルリン・フィルと共演 「情熱的演奏」高い評価
	京都新聞	東日本大震災5年 歌、演奏 世界も追悼 ドイツ ベルリン・フィルと共演 相馬子どもオーケストラ
	佐賀新聞	世界で祈り 3.11胸に 歌で被災地へ勇氣と希望
		相馬子どもオーケストラ ベルリンで復興の演奏 地元市民「情熱に感動」
	西日本新聞	世界も被災地と共に 東日本大震災 鎮魂歌、追悼の演奏
	静岡新聞	世界各地「3.11」の祈り
	北海道新聞	東日本大震災5年 世界も追悼



組織概要

組織関係図



将来は、困難な立場にいる子ども(不登校、いじめ、貧困世帯、障害児)を対象に、他の被災地、そして、他の国内地域への展開を計画

役員・スタッフ (2016年5月現在)

- 理事**
- 菊川穰 (代表理事)
 - 土井香苗 (Human Rights Watch Japan ディレクター、弁護士)
 - 竹内章子 (笠井総合法律事務所 弁護士)
- 監事**
- 矢崎芽生 (公認会計士・税理士)

スタッフ

- 本部 5名 (代表理事 1名、従業員 1名、業務委託 3名)
- 相馬 3名 (業務委託 3名)
- 大槌 2名 (従業員 1名、業務委託 1名)

フェロー (音楽指導ボランティア)

25名

音楽監督

古橋富士雄 (コーラス)
指揮者。NHK 東京児童合唱団常任指揮者(音楽監督)、桐朋学園大学音楽部講師、東京家政学院短期大学講師、日本合唱指揮者協会理事長、浜松市アクティビティ音楽院音楽監督、日本コダーイ協会理事を歴任する。特に40数年に渡り「NHK 東京児童合唱団」を愛情と情熱に満ちた指導により世界レベルの合唱団に育て上げ、国内外数多くの賞を受賞し、日本における第一線の演奏団体に育てた氏の力量は称賛されている。

浅岡洋平 (オーケストラ)
チェリスト、指揮者。東京芸術大学在学中に第31回「文化放送音楽賞」を受賞。ニューヨークのジュリアード音楽院に留学。日米両校において大学院を修了。現在は、指揮者・演出・音楽監督として、クラシック音楽の普及と再創造に取り組んでいる。また、ダルクローズ・メソッド、アレキサンダー・テクニーク、ルドルフ・ラバンの身体表現理論を軸に、ユース・オーケストラ教育カリキュラムの制作と実践指導を行っている。

岡崎明義 (吹奏楽)
フルート奏者。福島県相馬市生まれ。専門学校尚美高等音楽院(現 尚美ミュージックカレッジ)講師、尚美音楽短期大学助教授、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科教授職を勤め上げる。東京交響楽団との協奏曲共演をはじめ、ソロ演奏や木管アンサンブルなどでの演奏活動でも活躍。全国各地で音楽指導者・コンクール審査員も務める。現在、(社)日本フルート協会代議員、アジアフルート連盟日本本部常任理事。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira



©FESJ/2016/Takaki Dai

2012年3月	設立
2012年5月	相馬市と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定書を締結、市内の小学校への部活動支援、音楽授業支援、楽器支援を開始
2012年7月	ベネズエラのエル・システムを統括するシモン・ポリバル音楽財団と了解覚書を締結
2013年2月	初のコンサート「エル・システム ジョイントコンサート」を開催
2013年4月	「週末弦楽器教室」を開始、8月には市内の全ての小中学生を対象を拡大
2013年11月	作曲家・藤倉大氏による作曲教室を相馬市で開始
2013年12月	「相馬子どもオーケストラ&コーラス」の初公演であるクリスマスコンサートを開催
2014年4月	「週末合唱教室」を開始
	相馬市での活動が平成26年度「文化庁地域発芸術文化創造イニシアチブ事業」として市予算化
2014年5月	大槌町と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定を締結し、小・中学校の吹奏楽部への支援、楽器支援を開始
2014年8月	大槌町にて「週末弦楽器教室」を開始
2015年3月	「第1回子ども音楽祭 in 相馬2015」を開催
	「ドゥダメルと子どもたち」を日米エル・システム共同企画でサントリーホールにて開催
2015年11月	ベネズエラのテレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラが来日、相馬子どもオーケストラと大槌町の子どもたちと共演
2016年2月	「第2回子ども音楽祭 in 相馬2016」を開催
2016年3月	相馬子どもオーケストラの代表メンバーによるドイツ公演ツアーを実施
	大槌町の子どもたちと相馬子どもオーケストラの代表メンバーが「響け!復興へのハーモニー〜つながる未来〜」に参加

エル・システムジャパンでは、ホームページやFacebook、twitterを通じて、相馬、大槌での活動や子どもたちの様子を随時ご報告しています。こちら是非ご覧ください。

ホームページ

www.elsistemajapan.org

facebook

 [elsistemajapan](https://www.facebook.com/elsistemajapan)

<https://www.facebook.com/elsistemajapan>

twitter

 [@EISistemaJapan](https://twitter.com/EISistemaJapan)

<https://twitter.com/EISistemaJapan>



エル・システムジャパン活動報告書2015

発行	一般社団法人 エル・システムジャパン 東京都千代田区神田小川町3-24 大栄堂第2ビル3F tel 03-6280-6624 fax 03-6280-6634
発行日	2016年6月
デザイン協力	舟越 一郎 (funaco design studio)

